

深い抒情性で聴き手を包み込む
孤高のバリトン歌手・吉江忠男、
フォルテピアノの魅力を追求める名手・平井千絵、
世代を超えた二人の芸術家の邂逅が生み出す
シューベルト三大歌曲プロジェクト第三弾

F・シュ 冬の旅 ベルト

D911

吉江忠男
バリトン

平井千絵
フォルテピアノ

F. Schubert
Winterreise

2023.4.15 [sat]
at Hakuju Hall

2023年4月15日(土) 14:00開演/12:45開場

第1部 プレトーク 13:15~13:45

堀 朋平×平井千絵 《冬の旅》について語る

第2部 冬の旅(全24曲) 14:00~15:30

全席指定: 5,000円(税込)

プレミアムシート: 限定18席 6,000円(税込)*

ペアチケット: 9,000円(税込)* *ムジカキアラでのみ取り扱い

Hakuju Hall

〒151-0063 東京都渋谷区富ヶ谷1-37-5 (株)白寿生科学研究所 本社ビル7F

◎ チケット購入方法

Hakuju Hall オンラインチケット予約 <https://hakujuhall.jp>

チケットぴあ 冬の旅 吉江忠男 検索 <https://t.pia.jp/>

セブン-イレブン店頭でも購入可能

e+ イープラス <https://eplus.jp/>

◎ ご予約・お問合せ

ムジカキアラ Tel. 03-6431-8186 (平日10:00~18:00)

info@musicachiara.com

・未就学児の入場はご遠慮ください

・新型コロナウイルス感染拡大防止にご協力をお願いいたします

・ホールにはお客様駐車場がございません。

F. シューベルト「冬の旅」

F. Schubert
Winterreise
2023.4.15 [sat] at Hakuju Hall



吉江忠男 (バリトン)
Tadao Yoshie Bariton

長野県岡谷市生まれ。東京藝術大学声楽科卒業。二期会新人賞、外国人評論家クラブ「M.B.C.A.J賞」受賞。同大学院修了後 1969年 旧西ドイツ政府の給費留学生 (DAAD) としてゲトモルト北西ドイツ音楽大学へ留学。名門フランクフルト市立歌劇場 音楽総監督ドホナーニに認められ、1975年より12年間、歌劇場専属ソロ バリトン歌手として活躍。ハンス・ホッター、パヴァロッティ、カレラス、クラウス、パンブリー など錚々たる歌手たちと共演。またヨーロッパ各地で、オーケストラ演奏会や宗教曲の独唱者、音楽祭へ招聘されるなど幅広い分野で活躍。日本では二期会オペラ公演「フィガロの結婚」アルマヴィーヴァ伯爵、「ドン・ジョバンニ」タイトルロール等を演じる。1987年ドイツより帰国。ドイツ歌曲の世界に通じる 故郷信州を最終活動拠点とし、一意専心 歌の奥義を探究。古希を迎え共演した巨匠イェルク・デームスと音楽的共感から深い信頼関係が生まれる。2008年デームスの招聘によりザルツブルク・ミラベル宮殿にてリサイタル共演、2020年サントリーホールにて小林道夫とリサイタル共演、2021年に続き 2022年5月フォルテピアニスト平井千絵と共演しシューベルト三大歌曲プロジェクトを始める。2022年8月には 若手実力派ピアニスト阪田知樹との共演など、精力的に歌い続けている。



平井千絵 (フォルテピアノ)
Chie Hirai Fortepiano

桐朋学園大学ピアノ科卒業後、オランダ王立音楽院古楽科 (修士) 首席卒業。ブルージュ国際古楽コンクール3位、IYAP国際コンクール1位など国内外のコンクール入賞多数。欧州各地の音楽祭に招かれ、ラジオフランス、オーストリア国営放送等に出演。これまで国内外で15枚のアルバムをリリース。「メンデルスゾーン：チェロとピアノのための作品全集／鈴木秀美&平井千絵」は、第61回文化庁芸術祭優秀賞受賞。現在進行中のモーツァルトのピアノ・ソナタ全曲録音『Mozart Speaks』の多くがレコード芸術誌特選盤に選出、また最新ソロアルバム「Dream」は月刊サライ、レコード芸術誌特選盤選出されるなど、時代を超えた選曲と演奏解釈が各方面で高く評価される。国立音楽大学、東海大学非常勤講師。

〈プレトーク・ゲスト〉堀 朋平

住友生命いずみホール音楽アドバイザー、国立音楽大学ほか非常勤講師。東京大学大学院博士後期課程修了。博士 (文学)。専門はドイツ・ロマン派音楽を中心とする音楽美学。アーティストや他分野の知とまじわる「開かれた」音楽研究をこころざしている。近著『わが友、シューベルト』(アルテスパブリッシング、2023年)。



誰をもおおらかに包み込み、強く、柔らかに、幸せにする吉江忠男先生の音楽……

自らの力を発揮し、精一杯生きることを謳歌する。先生との初共演後、私が受け取ったメッセージ、宝だ。良きこともそうでないことも全て受け止めて生きること。それは、シューベルトが後世のわたしたちに託した願いでもあったかもしれないと、カーテンコールで先生の笑顔を見ながらゆっくりとお辞儀をしつつ、感じた。

——平井千絵

フォルテピアノについて ——平井千絵

フォルテピアノとは、昔のピアノ (現代ピアノの前身) の総称です。1700年、メディチ家に仕えたクリストフォリによる発明以来、現代ピアノの基礎が確立される19世紀の半ばまで、時代や地域によって形も音色もさまざまな楽器が作られ、広く愛されました。

現代ピアノとの最も大きな違いは、ハンマーヘッドの材質と大きさ、弦の張り方、そして鍵盤数です。現代ピアノのフェルトのハンマーに対し、鹿革が巻かれ、大きさは1/8、慣れるまでは心もとないほどの軽くて浅い鍵盤。交差せずに低音から高音まで平行に弦が張られているため、各音域が混じり合わず、明確に性格を発揮できます。88鍵の現代ピアノに対し、最初期のフォルテピアノは50鍵に満たない音域でした。ウィーンのフォルテピアノは、シューベルトの生きた31年の間に大きく変化しました。本公演で私が演奏するのは、1789年ウィーンの名工、A.ワルター作 フォルテピアノのレプリカで、61鍵、膝レバー付き、ペダルはありません。当時描かれた絵画の中で、丸メガネをかけたシューベルトが座っている楽器もこのタイプ。

歌曲のほとんどがこの音域のために書かれています。表情豊かなテノールで歌い、シャイで、友人たちに囲まれて過ごす時間が大好きだったシューベルト。大先輩の名バリトン、フォーグルとの共演の場にあったのもフォルテピアノでした。紡ぎだされる音色は、皆様をシューベルトの生きた時代にタイムスリップさせてくれるはず、どうぞお楽しみください。



*この演奏会では、歌詞対訳をご用意しておりません。皆様の魂に触れ、五感で味わっていただくために……



Hakuju Hall
〒151-0063
東京都渋谷区富ヶ谷
1-37-5
(株)白寿生科学研究所
本社ビル 7F

